

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	自然環境保全啓発事業			事業コード	252
所属コード	051000	課等名	環境企画課	係名	環境保全係
課長名	櫻 正伸	担当者名	木庭 大介	内線番号	8418
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	かけがえのない自然との共生	コード	2
	基本事業	自然の保護	コード	2
予算費目名	一般会計 4 款 1 項 4 目 環境啓発事業 (015-01)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 38 年度
根拠法令等	「環境基本計画」「自然環境及び歴史的環境保全条例」			

(2) 事務事業の概要

「花や緑」「きれいな街」を題材に、小学生を対象とした図画コンクールを実施することにより、小学生の街づくりや自然環境に対する関心を高め、より良い街づくりを推進するために実施するもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 27 年に松本市から始まった「花いっぱい運動」が全国展開していく中、昭和 38 年に事業を開始したもの。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

- ・大きな流れとしては、景観法が施行され、景観という切り口による街づくりが制度化されたこと。当市に係るものとしては、「花と緑のガーデン都市づくり」が重点施策として取り上げていること。これらにより、小学生が題材とするものがより広がってきている。
- ・共催者である農林中央金庫盛岡支店の廃止に伴い、農林中央金庫盛岡推進室との共催となり、実行委員会形式の運営に移行し、両者が負担金を拠出して実施している。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

市内小学校在籍児童と小学校

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 市内小学校在籍児童数	人	16,290	15,388	15,388	15,171	15,171
B 市内の小学校数	校	47	47	47	48	48
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

市内小学校に図画コンクール参加を呼びかけて，応募された作品を審査し，特に優秀と思われる作品については表彰等を行う。（作品の公募，審査，表彰及び展示）

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 図画コンクールに係る活動日数	日	50	50	50	50	50
B						
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

小学生の環境意識の向上を図る。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 図画コンクールの児童参加率（参加児童数/全児童数）	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	65	66	100	60	100
B 図画コンクールの小学校参加率（参加小学校数/全小学校数）	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	%	65	85	100	79	100
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	311	250	250	250
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	311	250	250	250
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	250	250	250	250
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,000	1,000	1,000	1,000
計	トータルコスト A+B	千円	1,311	1,250	1,250	1,250
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

幼少期にある小学生の環境意識の向上を図ることは、自然を保全していくことに繋がるという観点で重要であることから整合性が図られている。

② 市の関与の妥当性

教育を通じて実施している環境保全につながる事業であるため。

③ 対象の妥当性

幼少期にある小学生から環境意識の向上させ、自然環境の保全に繋がるという観点で効果的である。

④ 廃止・休止の影響

当事業は、市の主要施策である「花と緑のガーデン都市づくり」の主旨と類似しているという観点から、廃止することは望ましくない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

市からの参加呼びかけのほか、市教育研究会図工研究部会から参加を呼びかけていただくことにより、参加率の向上が見込める。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

当事業の直接の対象者は市内のすべての国公立・私立小学校の生徒を対象としていることから、受益機会は適正といえる。

(4) 効率性評価

当事務は、単独で委託する程の業務量ではないが、同種の業務を組み合わせる等の工夫をすることにより委託の可能性が見込まれるため、入札結果によっては事業費の削減余地につながる可能性がある。ただし、同種の業務の組み合わせの可・不可及び受託可能業者がどの程度存在するのかの具体的検討、調整等が必要である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

自然のみならず環境全体の啓発事業へ題材に拡大する等検討が必要である。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

各小学校と連携することと他の図画コンクールと題材が重複しないこと。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

花いっぱい運動を通して環境問題に関心を持たせる良い機会になっていると評価します。
今後も継続する必要があると考えます。